

平成 23 年度

事業所名：グループホーム シリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス姫神		
所在地	〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字駅105		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 4 日	評価結果市町村受理日	平成 24年 2月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100154&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所前の相談時に、認知症になり施設に頼まなければならない家族の切実な気持ちを感じ取り、尊厳と安心できる生活が出来るように、笑顔でそっと見守る様な支援をしている事を、説明させていただいてます。キャッチフレーズにして実行しています。 本人、家族、居宅のCMの方からも信頼を得られるようになり、地域の方の入所も増えてきました。看護師や幅広い年代層の女性スタッフがあり、きめ細かな介護で快適な生活を心がけ、地域に無くてはならないような上質なGHを目指しています。(地震の時に、ここをお願いしてたから大丈夫だと思っていた)(地域に、こんな所が出来て本当に良かった)(居宅CMから、相談するなら、まずここだと思っている)(ここは良い所だから、私は心配ない、あんた達気を付けてやりなさい)等の声が聞けてきた事が、ホームの理想に近づけたと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な地域の中心市街地にあり、近くには行政機関や学校、商店、医療等があり利便な環境にある。職員は20代から60代とほどよく均衡のとれた構成となっており、各世代の良さを活かしながら信頼されるケアを目指して支援に係わっている。施設の室内の色彩、採光、温湿度が配慮されたバリアフリーのゆったりとした空間で、利用者はのんびりと思い思いの時間を過ごしている。新規の利用者には、環境に馴染むまでの間、3日、3週間、3ヶ月の目標を持ち、一対一の関係で本人の不安感の解消に努め、安心できるまで寄り添う姿勢で対応し、家族の心配な思いをくみ取りながら細心の心配りで、居心地の良い生活ができるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的や運営方針を掲げて、実現するために開所前に話しあい、家族の思いを込めて、キャッチフレーズにし、掲示して実行しています。(笑顔で、そっと見守る、穏やかな日々を目指します)	運営方針の具現化に向け、ミーティング等で話し合いその意図を共有して日々のケア支援に活かすよう努めている。また職員は利用者一人ひとりの思いを聞き、その実現に心がけているとしている。	※運営方針 ①安心と尊厳のある生活を笑顔でつないでいきます②生きがいと楽しさを見出せる環境づくりをします③地域と交流を深めながら生活文化を取り入れていきます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の保育園児に来ていただいたり、民謡や踊りの同好会の方も、今年から来てくださり、「知ってる人もいたよ」と入所者の方に話され、地域との繋がりが出来ました。	保育園児との交流や運営推進会議委員の紹介でボランティアとの交流もできている。地域の在宅介護者が相談に訪れるなど地域との繋がりが広がってきている。今後、近隣や町内会との連携を図りたいとしている。	地域密着のホームとして住民から期待されこの地に根付くよう、近隣の住民や町内の様々な組織等との繋がりを更に図られるよう期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや居宅支援事業所の理解も広がり、地域からの入所希望者が増えています。今後も、地域の方に貢献できるような施設にしていきたいと思っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部への大切な情報発信源と考え、施設の現状や特質を伝える事で、情報や御意見をいただき入所者のサービス向上につながって来てると思っています。	日頃の取り組みを詳細に報告し理解・協力が得られるように努めている。委員の助言や橋渡しでボランティア等が来てくれたり、包括支援センターとの繋がりがから医院・病院との連携が図られるなど、運営推進会議が活かされている。	課題・テーマ毎に外部の方々をお呼びして多角的・多面的に意見、助言等を聞く方法を取り入れることで、幅広い支援協力が得られることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議では、各種情報をいただきながらお互いの情報交換が出来支援に役だっています。非常災害時には動きのとれない、施設に安否確認の訪問や電話があり、守っていただいています。	行政とは諸会議での情報交換や、介護認定更新手続き等の機会などを通じて連携、相談するほか、包括支援センターとは利用者の入退所時の情報が提供されるなど緊密な関係が築かれている。震災時には安否確認に来訪され「見守られている」と安心したとしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除に関してのMで学習、理解し、見守りや適切な介助で、身体拘束をしないで済むような援助をしています。玄関の施錠は、防犯上夜間のみとしています。	「大切な方をお預かりしている」との認識のもとで対応しているという。帰宅願望の方もいるが外出をする方には、見守りながら付き添い散歩で気分転換を図るように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてMIにて学習、理解し、虐待が起きないように、職員間でも常に注意しています。機会があったら是非研修もしたい項目です。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の入所者に、この制度を利用する方がおり、盛岡市の資料をもとに、勉強し理解しました。その為補助人の方や、家族からも信頼を得ることが出来ました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するには、利用事前調査を行ない、家族や本人の意向を確認し、契約の時には、重要事項説明書にて、必要な事項を納得、安心できるまでわかりやすく説明する事にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を実施、3カ月に1回はCPの見直しで確認、日々の生活の中で感じ取ります。みんなの声の箱を設置し訴えの表出に注意しています。家族等は電話、メール、面会時に確認しています。	利用者との会話や表情などから汲み取ったり、家族との面会時のほか、遠隔の方とはメールで情報を交換し意見・要望を聞き、その内容を検討しながら運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の変化に注意し、書類等も確認し、職員と常にコミュニケーションを図りながら意見をもらい、職員会議で確認し、実績報告会議にて報告し運営に役立てています。	日常サービスに関し気づいた意見等について申し送りノートに記述し支援に活かしているほか、職員の勤務体制の希望などの意見を聞き運営面に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を理解把握し、各自の能力が発揮しやすい様に出来る事は任せ、困っている事には耳を傾けて、安心して働けるようにし、代表者に報告してしています。代表者の理解あり、職員のやりがいに繋がってる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な事はMIにて内部研修を実施、外部研修は順番に参加、日々の生活の中から、職員が自ら学ぼうとする気持ちを大切にする管理者を、良く理解してくれてます。資格修得にも繋がっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会に入会し、意見交換や勉強会を行なっています。交換研修も行なって、職員が同業者と交流し良い刺激になって、仕事への意欲にも繋がってきています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されるほとんどの方が、何でここに居るかが理解できない状態なので、どんなことも否定せず受け容れて、根気強く話を聞き、繋がる会話を見つけ出し、信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で、家族の思いをしっかり受け止め、ホームの運営方針も理解、納得できるまで説明し安心されてます。事務業務も的確に行なう事で信頼関係に繋がってきたかと思っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時やアセスメントする時に、家族や本人の必要とすることを感じ取り、入所してからの状態を良く観察しながら、職員同士で良い方向を探しながら状態安定に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活習慣歴を確認しながら、出来る事は見守りながら、出来ない事はそっと支援する心がけています。良い事もそうでない事も相談して、共に見守り、見守られたりしています。家族の様な声がけが返ってきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「月に1回だから」と通院介助もしてくれたり、季節の野菜や、お土産など、「おばあちゃん達に食べさせてね」と持って来てくれたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の、歌や踊りのボランティアの方が馴染みの方だったり、受診時に声かけてもらったりしています。馴染みの方が面会に来てくれた時は、相談にのったりもしています。遠くの方からも定期的に電話が来ています。	馴染みの知人や友人などの来訪や、家族からの電話があったり、また医療受診を利用した新たな馴染み関係を作ったり馴染み関係の継続に工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所して間もないので混乱、興奮してる方が、自分より困ってる方を見、手が動かなくなるんだからとお手玉でリハビリしてあげてました。そっと笑顔で見守っていました。そんな橋渡しをしていきたいと思っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時に、「十分お世話になりました」と話されることが多く、何かあったらいつでも連絡くださいと話しています。終了まぎわの相談が一番多いのが現状です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	始めに確認しますが、その後は日々の生活の中から常に探して、ケアに反映させています。満足度調査も意見確認の手段にしています。	入所時に本人・家族の意向等をしっかり把握するほか、日々の生活支援を通じて会話や表情などからの観察や何気なく発する言葉からの「気づき」を大切にして支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にCM、本人、家族から教えて頂き、身内の面会の方等からも教えて頂く事があり、見逃さないようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録を参考にし、日々の介護場面においても、心身の変化や日内変動に注意し、有する力を発見し、職員からの情報も加え、現状把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録や、モニタリングを参考にしながら、職員会議でケース検討し、介護計画に取り入れてます。本人、家族からは、常にその言葉、思いをプランに入れる様にしています。	家族の意向や本人の状況を確認しながら3か月毎に見直しているほか、介護度の変更や急激な状況の変化時に応じてその都度見直している。なお、歩行がおぼつかない方や床ずれがみの方が改善されてきているとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り帳を活用し、計画作成者は専用のモニタリングを行ない、ミーティングもしながら実践や、プランの見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	検査入院の為、付き添い者探し、家族に代わって依頼、調節等をメールで行ない、急な事でしたが無事行なえた。家族からは非常に感謝された。出来ることは対応していきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の、歌や踊りのボランティアの方が馴染みの方だったり、受診時に声かけてもらったりしています。馴染みの方が面会に来てくれた時は、相談にのったりもしています。遠くの方からも定期的に電話が来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活から、ホーム入所となり、主治医も変わった方がありましたが、紹介状にて今までどうり適切な医療が受け継がれています。	医療受診は原則家族対応としているが、家族が遠距離や急変時は職員が対応している。家族とは電話やメールでその都度連絡をとり情報を共有している。状況により専門医の受診など連携を密にし、適切な治療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たまたま当ホームには、看護師だった方が介護職で勤務しており、介護職、看護職のつながりが強い為、利用者への支援に心強いものがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通常の通院、緊急時の受診、入院出来る病院、その後の施設入所まで、一連の連携が出来ようになっており、家族も安心感があるようです。居宅もあるのでつながりが出来て情報交換がしやすいです。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時に適切な医療、介護出来る所の相談することを、入所時に話あっています。かかりつけ医、病院、その他の施設関係者との連携してる事を説明し納得してもらっています。	現状では重度化した場合や、終末期の現施設での対応は困難であることを家族に説明し理解を得ている。医療機関や関連施設への移行については責任を持って紹介や入所の支援をする方向で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に事故発生時対応MIにて学習し、消防署の指導のもと、心肺蘇生方法を受講し、看護師からもその都度指導受けたりしています。その危険性のある方は緊急時の対応方法も職員間で周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の非常災害を体験し、火災以外にも地震などの災害時の対応について職員間で話しあいをしました。MIにはない事も確認できました。消防署の協力のもと避難訓練実施。地域の連携も今回確認出来ました。	消防署の指導のもとに避難訓練を年2回実施している。東日本大震災を経験し、マニュアル見直しの必要性から職員と話し合い検討し、地震も含めたマニュアルを作成して災害に備えている。	新興住宅地であるが近隣住民や地域との連携が更に図られるよう期待したい。特に災害時に地域の支援を受ける協力体制が確立されることを望みたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関するMIにて、開所前に学習し、職員同士も声かけや、対応について注意しています。	職員にはマニュアルを周知し、特にトイレ利用時や入浴時、食事時などは目配り・気配りし、言葉がけに気をつけている。仲間同士で気づいたときはお互いに注意し合い支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、職員は思いやりを持って接し、信頼を得るようにして、思いや希望も聞きだしやすいようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によって変化することも考え、入浴なども毎日行なっていますが、順番や、入ることも自由に選んでもらっています。外出等も、天気に左右されるので、その方の生活パターンで支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着たい、美容院に行って髪染めたりカットしたりしたいと話される方もおりますので、要望に沿うよう支援しています。自分のブラシで髪をとかせれる様見守っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に好みを聞いたり、満足度調査にて確認しながら、季節の野菜を炊で作ったりしたものも食べています。部分的なお手伝いですが一緒にしています。「食事は1番の楽しみです」の声も聞かれます。	献立は利用者の好みをとり入れ、食品チェックシートで栄養素のバランスに気をつけて職員が作成している。庭先で作ったジャガイモの皮むきを利用者と共に行なったり、味見やテーブルふきなど個々人の力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個人差があり盛り付け、量や形態にも注意しています。栄養バランスは10品目チェックシートで確認しています。個々の支援状態は1日分全部確認できる一覧記録で、確認しながら行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、職員の見守りや介助にて毎食後全員がきちんと行なわれています。寝たきりで、うがいが出来ない方は、専用のブラシでケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の問題を抱えて、入所された方も多くあり、衛生用品の勉強会を行ない、適切な支援が行なえるように、生活パターンも考慮してトイレ誘導しながら、清潔な生活が出来るように支援しています。	入居時は紙パンツの利用者が多かったが、トイレ排泄を目指し、排泄チェックシートを活用し、定時の声がけや誘導により適切な支援を行い、歩行の不自由な方がトイレで排泄できるまで回復した利用者もいるとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝1番の牛乳に始まり、水分の摂取量に注意し一覧記録で排便の確認しながら、下剤の調節も行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行なっているので、個人の希望、体調を確認しながら、その方に応じた入浴方法を行なっています、浴槽に入れない方は(足浴、シャワー浴、下半身浴、清拭)等	入浴は毎日、概ね11時から16時頃まで利用でき、利用者の体調を考慮しながら支援している。浴室は淡い暖色の壁面で癒しの場ともなり、利用者と職員のコミュニケーションも図りやすい雰囲気があり心身のケアの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ほぼ全員が居間でめいめいにくつろいでいる状態です。夜間は音、温度、その他の障害に注意しながら見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に受診し、服薬は受診時に確認してきた事を申し送り、職員は周知している。受診前には、スタッフに症状も確認し、医師に症状を説明し、適切な処方、服薬支援をしている。飲むまでの確認も行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味や趣向、生活歴を入所前に確認し、生活の中でもくみ取りながら、歌や塗り絵、体操、手作業、おしゃべり等とりいれながら、孤立しないようにしています。さりげない声かけも心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の方や気分転換に、外の畑の野菜とりに行ったりしています。希望で美容院に行ったり、ショッピング、足湯、紅葉狩りドライブ等喜ばれています。又、岩手山の麓の病院受診はとても楽しみにされています。	天気の良い日はホームの周囲の散策や近隣のショッピングセンターの足湯などに出かけられている。紅葉狩りを兼ねた岩手山麓のドライブも好評である。今後も家族やボランティアの協力のもとに外出支援を試みたいとしている。	風光明媚な環境に立地しているが、地域のボランティアとの連携を図りながら、利用者一人ひとりの希望を更に大切にしたい外出支援が継続されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診や、孫が来た時にあげたいと言う方もあります。でも忘れることもあり、混乱のもとになるので、記録に残して支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時は、こちらで確認して渡しています。友達から電話もありますが、難聴で「さっぱりわがね・・・」とぼやいたりしています。手紙は来る事がありましたが、こちらから電話で話してもらってます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけ、各空間が安全が気持ちよく生活出来るようにしています。温度、空調、採光も、建物自体に工夫されてるので、皆さんも居心地の良い居間と思われるようです。季節感を感じて頂けるように花や、壁面飾りも皆で作っています。	ほどよく小綺麗な共用空間で、洗面所まわりの収納棚の工夫、清潔感、天窓からの間接採光、床暖のほのかな暖かさなど、居心地の良い空間となっている。テレビ、テーブルのある居間では、利用者が思い思いにテレビや新聞などを見ながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽あたりの良いスペースに、花やテーブルを置いたら、お茶を飲んだり、写真見たり、ちょっと休みの場になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビ、等持ってきている方もあります。お部屋は明るく清潔に心がけています。	居室にはテレビや位牌などが持ち込まれ、孫や家族の写真が貼られ、また手芸作品が飾られている。日中、横になり休みたい利用者は居室のドアを開けっぱなしに居間にいる利用者一体感を得られるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護に注意し、見守りながら、危険はさりげなく回避し、プライドを重視した支援が出来るように心がけています。		